

raipara-re ry(r3)

赤城 茜

2020 年 9 月 24 日

# 目次

I	はじめに	3
II	言語システム	5
第 1 章	音韻・音声	6
1.1	母音 . . . . .	6
1.2	子音 . . . . .	6
1.2.1	子音そのものの発音 . . . . .	7
1.3	促音・撥音 . . . . .	7
第 2 章	形態論	8
2.1	Modifier・Supplier . . . . .	8
2.1.1	Modifier . . . . .	8
2.1.2	Supplier . . . . .	9
2.1.3	mod・sup の語順 . . . . .	9
2.2	動詞 . . . . .	10
2.2.1	動詞の名詞・形容詞・副詞化 . . . . .	10
2.3	名詞 . . . . .	10
2.4	疑問詞 . . . . .	11
2.5	時制・相・法・態 . . . . .	11
2.5.1	時制 . . . . .	11
2.5.2	継続相 . . . . .	11
2.5.3	受動態・使役態 . . . . .	11

第 3 章	統語論（一般）	12
3.1	文全体の語順	12
3.1.1	動詞のみ（V）	12
3.1.2	動詞と主語（VS）	12
3.1.3	動詞と主語と目的語（VSO）	12
3.1.4	動詞と目的語（VO）	13
3.2	疑問文	14
第 4 章	統語論（mod・sup）	15
4.1	sup の項の解決	15
4.1.1	sup の役割・基礎的な読み解き方	15
4.1.2	入れ子になった sup の解決	15
4.2	mod の解決	16
4.3	sup の修飾品詞による意味の変更	16
4.3.1	-re のポリモーフィズム	16
III	附録	18
第 5 章	附録 A	19
5.1	外来語の表記・読み	19
5.2	日本語への転記	19
第 6 章	附録 B	20
6.1	「インターナショナル」r3 版	20

# 第Ⅰ部

## はじめに

---

そんなものはない

# **第Ⅱ部**

## **言語システム**

第 1 章

音韻・音声

1.1 母音

表 1.1 母音表

	前舌		後舌	
狭		i[i]		y[u]
半狭	e[e]	ee[e:]	o[o]	oo[o:]
広	a[a]	aa[a:]		

1.2 子音

表 1.2 子音表 (-j 以外)

	両唇音		舌頂音		舌背音		声門音
破裂音	p[p]	v[b]	t[t]	d[d]	k[k]	g[g]	
鼻音	m[m]		n[n]				
ふるえ音			r[r]				
摩擦音			s[s]	z[z]			h[h]

表 1.3 子音表 (-h-)

th[tʰ]	zh[dʒ]	rh[rʰ]	sh[ʃ]	f[ɸ]
ph[pʰ]	vh[bʰ]	kh[kʰ]	gh[gʰ]	mh[mʰ]
nh[n]				

### 1.2.1 子音そのものの発音

例えば子音 K や子音 M そのものを発音する（英語で言う「エー、ビー、シー……」）ときは、

- 大文字の場合 -aa
- 小文字の場合は -ea

を子音につけて発音する。

## 1.3 促音・撥音

子音を重ねると促音になる。例えば rakka のとき発音は /ra.k:a/ になる。また、撥音に n[n̩] が存在する。



## 第 2 章

## 形態論

### 2.1 Modifier・Supplier

#### 2.1.1 Modifier

**Modifier** (略記: mod<sup>\*1</sup>) は動詞に法・相・態などを追加するものである。mod は語の前につく (例. *ny-kyvenai* 「知らない」)。mod には特定の接尾辞がつかない。表 2.1 はよく使われる mod の一覧である。

表 2.1 主な Modifier の表

語	意味	用例	備考
di-	～しなさい (強)	<i>di-zhavai!</i>	上司が命令するイメージ
ri-	～しなさい (弱)	<i>ri-panhai!</i>	友人を誘うイメージ
ni-	～ならば	<i>ni-dai-sy re, ...</i>	
kyi-	～している	<i>kyi-monai.</i>	
ro-	過去、～	<i>ro-oreai.</i>	kyi- と併用で「～していた」
ho-	将来、～	<i>ho-derai.</i>	

<sup>\*1</sup> sup を含めてすべて小文字で表記する

## 2.1.2 Supplier

**Supplier**（略記：sup）は動詞・名詞に続く語の関係を示すものである（詳細は統語論で扱う）。sup は語の後につく（例：rhai-se re.）。sup には特定の接尾辞がつかない。

sup が動詞・名詞に付くことを「**修飾（する）**」と呼ぶ。語に sup がついていることを「（語が sup を）**持つ**」という。sup が取る語（例：vea-re veie ならば sup -re に対して veie）を「**項**」と呼ぶ。sup が項を取り関係を確定させることを「（項を）**解決する**」と言う。

表 2.2 はよく使われる sup の一覧である。

表 2.2 主な Supplier の表

語	意味	用例	意味
-sy	～は	monai-sy ry.	「私は寝る」
-se	～を	heriai-se ina.	「これを奏でる」
-re	～の	parai-se parassa-re ferina.	「本当の答えを言う」
-nie	～で	rerei-nie ina.	「ここで遊ぶ」

## 2.1.3 mod・sup の語順

原則 mod・sup はどのように並び替えても良い。例外は以下の通りである。数字が若いほど優先度が高い。この例外事項は義務的ではない。

1. 疑問詞の絡む sup の項  
→ 常に他の sup の項より後に付加する。
2. sup sy-  
→ 他の sup より先に付加する。
3. mod ay-  
→ 他の mod より先に付加する。
4. mod ny-  
→ 他の mod より先に付加する。

## 2.2 動詞

動詞は語幹に接尾辞 **-ai**、**-ei**、**-oi** のいずれかがついた形で表される。動詞は **mod** と **sup** を持つ。

### 2.2.1 動詞の名詞・形容詞・副詞化

すべての動詞はそれぞれ名詞の形を持っている。いくつかの動詞は形容詞・副詞の形も持っている。活用は動詞の語尾に応じて表 2.3 のようにする。

表 2.3 動詞の名詞・形容詞・副詞への活用

動詞の接尾辞	動詞	名詞	形容詞・副詞
-ai	-ai	-a	-ae
-ei	-ei	-ea	-e
-oi	-oi	-oa	-oe

**sup -re** など動詞を他の名詞に修飾したり、動詞自体を名詞として主語に取ったり（項に動詞を取る **sup -sy** 等）するときは適量活用するのが望ましい。動詞を名詞化して **sup -re** など項に取った場合は名詞の意味で解決され、動詞のままで項に取った場合は「～すること」という意味で解決される。以下は例である。

- **senoa-re danoa** 「名前の意義」
- **senoa-re danoi** 「名付けることの意義」

## 2.3 名詞

名詞は接尾辞 **-a** がついた形で表される。名詞は **sup** を持つ。ただし一部の名詞（専ら代名詞の一部で **ry** や **re** など）は **-a** で終わらない。

副詞は形容詞が**動詞に掛かる** **sup -re** によって付加されたものである。即ち、名詞に掛かる **-re** による形容詞は形容詞のままで、動詞に掛かるものは形容詞が副詞として扱われる。

- **deria-re perie**. 「可愛い人々」（形容詞）

- pakorai-re perie. 「可愛く笑う」(副詞)

## 2.4 疑問詞

## 2.5 時制・相・法・態

### 2.5.1 時制

時制は *mod* で表現する。過去は *mod ro-* で、未来は *mod ho-* を付加して表現する。

### 2.5.2 継続相

相は *mod* で表現する。どの相も特定の時制を表現することはない。時制はそれ専用の *mod* を別途付加することで表現する。

継続相は *mod kyi-* を付加する。

### 2.5.3 受動態・使役態

態は *mod* で表現する。能動態のときは無標である。受動態は *mod esi-* を付加する。使役態は *mod eki-* を付加する。

## 第3章

# 統語論（一般）

## 3.1 文全体の語順

基本的な語順は VSO である。ただし *mod -sy* の場所によっては VOS になりうる。主語がない（= *sup -sy* により付加されない）場合単純に VO のみとなる。

### 3.1.1 動詞のみ（V）

- *veriai*. 「起きる」
- *zarai*. 「行く」
- *ameriai*. 「泣く」

### 3.1.2 動詞と主語（VS）

- *derai-sy deria*. 「人は死ぬ」（-*sy* は主語を項に取る *sup* である）
- *benerai-sy ry*. 「私は悔やむ」
- *akyai-sy re*. 「貴方は捧げる」

### 3.1.3 動詞と主語と目的語（VSO）

- *parai-sy-se ry raipara-re ry*. 「私は *raipara-re ry* を話す」
- *zerai-sy-se re ry*. 「貴方は私を愛する」

- dea-dai-se-ne minura ry. 「秘密を私に与えよ（＝教えよ）」

### 3.1.4 動詞と目的語（VO）

主語がない場合、何が主語になるかは文脈に依存する。

- rea-noadoi-se meria. 「星を数えましょう」
- ny-kyvenai-se roea. 「迷いを知らない」

## 3.2 疑問文

疑問文のうち、「はい」か「いいえ」で返答されうるものは通常の文の主たる動詞に *mod ay-* を付加して表現する。一方で何がわからないか（または知りたいか）といった疑問の対象が明らかな場合は、*mod -ay* を付加した上で対象に対応する疑問詞を通常の *sup* を通じて表現する。

- Seni: *ay-enogai*? 「食べますか？」  
Romi: *reene*. 「はい」（または）*nene*. 「いいえ」
- Kyrani: *ay-ri-honorai-se kande*? 「何を歌いましょうか？」  
Renei: *ri-ai-se «reia-re reda»*. 「『夜の月』を歌いましょう」

なお、文末に「？」をつけることは必須ではないが、つけてもよい。

## 第 4 章

# 統語論 (mod・sup)

## 4.1 sup の項の解決

### 4.1.1 sup の役割・基礎的な読み解き方

Supplier、略して sup は動詞または名詞と続く語の関係性を示す重要な概念である。いわゆる格（例：～が・～を・～に、など）など各種の文法事項の大半がこの sup で解決される。sup は基本的に修飾する名詞・動詞に続く語を sup の並びに応じて**左から順に**項に取っていく。

sup は常に一つだけ語、名詞句、動詞句などを項に取る。逆説的に複数の語（の塊）が一つの sup で解決されることはない。言い換えるなら上述の通り左から順に項（語）を取る時、一つだけ取ることはあっても二つ連続して取ることはない。

以下に単純な例を挙げる：

- zeai-sy ry. 「私は愛する」  
sup -sy (～は) が ry (名詞：私) を項に取っている。
- zeai-sy-se ry re. 「私は貴方を愛する」  
sup -sy が ry、sup -se (～を) が re (名詞：貴方) を項に取っている。

### 4.1.2 入れ子になった sup の解決

例えば「zeai-sy-se ry re-re perie.」という文章を考える。意味は「私は可愛い貴方を愛する」である。ここで注目すべきは、sup -re が項に取っている re が sup -re を持つ



ていることである。

このような場合も常に左から項を解決する。即ち以下のように解決を進める：

1. sup *-sy* が最初の項 *ry* を取る。  
→「私 (*ry*) は (*-sy*) 愛する (*zeai*)」
2. sup *-se* が次の項 *re* を取る。  
→「貴方 (*re*) を (*-se*)」
3. *re-re* の sup *-re* が次の項 *perie* を取る。  
→「可愛い (*perie*) の (*-re*) 貴方 (*re*)」 = 「可愛い貴方」  
ここで *re-re perie* は一塊の名詞句として扱われる。
4. それぞれの項をまとめて sup の解決を終了する。

## 4.2 mod の解決

sup と違い Modifier、略して *mod* は一切の項を持たないので、sup より解決は極めて簡単である。*mod* は常に対象の動詞・名詞の前につく。対象が直ちに定まるため、*mod* の意味を直接対象に与えるだけで良い。以下は例である。

- *ri-honorai*. 「歌いましょう」  
*mod ri-* は相対的に弱い呼びかけ・誘いの意味合いを持つ。
- *ho-derai-sy ria*. 「人は死ぬ」  
*mod ho-* は将来起こることを示す。

## 4.3 sup の修飾品詞による意味の変更

一部の sup はそれが修飾する語の品詞（動詞か名詞）によって意味を変える。これを **sup のポリモーフィズム** と呼ぶ。具体的には sup *-re* が該当する。

### 4.3.1 -re のポリモーフィズム

便宜的に文を「A-re B」とする。

- A=名詞・B=形容詞

→ B は形容詞のままである。

- A=動詞・B=形容詞

→ B が副詞化する。

# 第Ⅲ部

## 附録

## 第 5 章

# 附録 A

### 5.1 外来語の表記・読み

外来語（例：英語・日本語）の語を r3 で表記するときは原則として外来語のアルファベット転記をそのまま表記する。r3 にない文字（C や L など）もそのまま写す。

読みは r3 の発音規則にそってできるだけ似せて表現する。テキスト上で記述するときは原表記と共に読みも記述するのが望ましい。

### 5.2 日本語への転記

r3 の発音規則は概ね日本語と共通しているので、発音する通りに日本語（仮名など）に転記すればよい。

## 第 6 章

## 附録 B

### 6.1 「インターナショナル」 r3 版

iy-viria-ve-re zizenoi naira  
 di-veriai-de mezei-se senra  
 veparai-sy vyrenda-re rena  
 ri-gezeai-re-de fore ferina  
 ni-dezai-re-se zenoe vie-senra  
 tan-reviei-se sareira-re ferina  
 ai-sy rena-re takai-rae zaira  
 morei-se zie-senra-re fasea  
 (※ 繰り返し)  
 di-zarei-ne gezea-re haira  
 forei-re-sy finae rena  
*International*, (r3: Intaa-nasho-nara)  
 finai-re-sy mezea rena  
 ※ 繰り返し

すべての飢えたる奴隷達よ  
 世界を変える為決起せよ  
 我らが血が訴えかける  
 真理の為に共に戦おう  
 旧世界を直ちに破壊して  
 本来の権利を取り戻す  
 無から立ち上がった我々が  
 自由な新世界を統べるのだ

最後の戦いに赴こう  
 我々は強く団結する  
 インターナショナル  
 我々が変革を成し遂げる